

《沼田市教育機関の適正配置及び設置に関する審議会答申の概要》

（表題）

利根町小学校の適正規模及び適正配置について

（提言）

利根町小学校の適正な配置等に関する基本的な考え方

（1）適正な小学校の配置について

①統廃合の可否と範囲について

平成24年5月1日現在の利根町4小学校の児童数の合計は247名で、複式学級の対象学年は2校で4学年であったが、平成24年度に、利根町小学校統合研究会が行った、保護者アンケートの結果では、この時点で既に、多那小学校を除いた3小学校の保護者は統合賛成が多数を占めていた。

平成26年8月1日現在、利根町4小学校の児童数の合計は200名で、複式学級の対象となる学年は、3校で10学年となっており、平成24年度からさらに児童数は減少し、平成30年度には合計児童数が140名で、複式学級対象学年が4校で、16学年に増える見込である。

児童数が少なくなると、一人一人の活動機会が増えたり、一人一人に応じた個別の指導がしやすいというメリットがあるが、次のようなデメリットがある。

- ・多様な友達とかかわり、様々な集団活動を通して、心や体を成長させていくことが難しい。
- ・スポーツや音楽活動、運動会などの学校行事といった集団教育活動に制約を受ける。
- ・多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。等

利根町の各小学校の各学年は、数名から10名程度であり、このようなデメリットが懸念される。集団で多様なかかわりをもって互いを高めていくという学校の機能を十分に発揮させ、児童のよりよい成長を図るには、一緒に活動できる児童数を増やす、学校統合が望ましいと考えた。

なお、学校統合を検討する場合においては、学校規模だけでなく、遠距離通学等による児童の心身に与える影響や地域に根ざした教育活動の実施など、児童の教育を第一に据え、学校の持つ地域的意義等をも考え、十分に地域住民の理解と協力を得て対応していくことが大切である。その点から、多那小学校については、保護者アンケートからも分かるように、遠距離通学の懸念や、小中併設で地域で一体となって進めている教育活動など、地域の特性等を考慮して、今回の小学校統合には加えないことが適切であると判断した。

以上のことから、利根東小学校、平川小学校、利根西小学校の3校を統合することが適切であると判断した。

②統合の場所について

利根東小学校、平川小学校、利根西小学校の3校のどこに統合小学校を位置づけるかについて検討を行った。その結果、元々の本校であること、3校の中間地点に位置すること、利根中学校に近く小中が連携した教育がしやすいことなどから、要望書でも挙げられていた、利根東小学校の場所が適当であると判断した。

今後の利根町の教育を町を挙げて支援して行くには、教育の充実に資する利根町の拠点施設が近隣にある地理的条件を有効に活用することが教育効果を一層高めると考える。また、中学校が近くにあることから、行事や教科指導など小中の教職員が連携して指導に当たる機会を増やすことができ、学習指導及び生徒指導の充実が図られ、学力向上、豊かな心の育成及び健康・体力の向上に効果的であると考ええる。

なお、耐震工事等については、よりよい環境の整備の面から早急に対応されたい。

(2) 統廃合の時期について

平成23年度に、利根町管内の小中学校のPTA役員からなる、利根町小学校統合研究会が発足し、平成25年度には利根町小学校統合検討委員会により統合の地域合意を得て、積極的に統合に向けた働きかけがされ、一日も早い統廃合を望んでいることが理解される。

しかし、学校の統廃合を行うには、閉校と開校に向けた丁寧な準備が必要である。

閉校に向けては、学校は、地域の中心地に位置しており、地域が長年愛着を寄せてきた場所であること、地域コミュニティの拠点であることなど、学校の持つ地域的意義等も考え、十分に地域住民の理解と協力を得て対応していくことが大切である。

また、各学校は、物品・書類等の整理や閉校式に向けた記念の各種事業など、校内で組織を編成し、計画的に準備を進めなければならない。その中で、特に大切にしなければならないことは、学校を閉じる日に向けた児童の心の準備である。〇〇小学校最後の運動会、〇〇小学校最後の遠足など、学校への思いや、地域への感謝、人々への感謝など、授業や行事、記念の活動など、学校の教育活動と合わせて、丁寧に準備をしていくことが大事である。

開校に向けては、3地域・3学校が連携して、教職員、保護者等により準備委員会を組織し、その中で役割分担を行い計画的に綿密に準備しなければならない。中でも、新しい学校の教育理念や教育内容等を決定することが大変重要で、細かな作業を必要とする。各学校の現状の把握、どこの学校の何を生かすか、融合させるか、全く新しいものを取り入れるか、関係学校の教職員等が中心となって、児童の実態に十分配慮しながら、計画的に丁寧に調整していく必要がある。

これらのことから、統廃合の時期については、効果的かつ丁寧なしっかりした準備を進め、なるべく早い時期に行うことが望ましいと考えた。

(3) 留意事項について

① 児童の心に与える影響について

慣れ親しんだ学校が閉じられることは、児童にとっても少なからず心の動揺や寂

しさがある。そのような児童の心に十分留意し、慣れ親しんだ学校での友達や先生、地域の方々との数々の思い出を丁寧に整理し、児童の成長に資するお別れができるよう、学校と家庭、地域が連携して取り組む必要がある。そして、新たな環境の中で、学校生活をより充実させる期待をもてるようにしていくことが大切である。

具体的には、学校は、道德の時間はもちろんのこと、教育活動全体を通じて道德性を育んでいる。その中で、郷土の文化と伝統を大切にし、郷土を愛する心も育てている。慣れ親しんだ学校を愛することは、その基本ともなる大事な内容である。その学校を閉じるには、閉じる日に向けた心の準備が大切になる。学校への思いや、地域への感謝、人々への感謝など、学校の教育活動と合わせて、児童の心の醸成に留意し、丁寧に準備をしていくことが大事である。

② 学校の教育の目標や内容について

統合する3校は、それぞれの学校の目標の実現のために、地域に根ざした特色のある教育活動を行い、学校と家庭、地域が一体となって児童を育ててきた。それらの学校が統合するということは、新たな集団となる児童の実態を踏まえて、それぞれの地域のよさや特色のある教育活動を生かしながら、新たな目標を定め、児童の一層の成長が図れるよう、学校行事や授業で使用する地域素材、協力いただく地域の方々等、3校が綿密に連携して調整、創造を行っていかねばならない。

学校行事だけでもそれぞれの学校に大変特色があるので、精選していく過程で、何を生かしていくかなど、総合的によく検討しなければならない。それらのことが多岐にわたるので、計画的に実施していく必要がある。

③ 保護者、地域住民の理解について

学校の実情や今後の児童数の推移、統廃合の必要性及び教育効果等について説明し、理解を得るよう努めなければならない。各地域で説明会を開催するとともに、あらゆる機会を捉えて、保護者、住民の意見と理解を求めていくことが必要である。

また、それぞれの学校は、先人たちの並々ならぬ努力により、運営されてきており、その歴史的経過や学校がなくなることへの地域の思いに十分配慮しなければならない。

④ 通学の安全確保について

3校においては、現在もスクールバスを運行しており、統合後においても、児童の負担等を考慮し、安全かつ効率的な移動が可能となるようスクールバスの運行支援を行うとともに、通学路の安全確保に配慮しなければならない。

⑤ 学校施設跡地の活用について

学校は、地域の中心地に位置しており、地域が長年愛着を寄せてきた場所であること、また、学習・文化・スポーツなどの活動の場として利用される地域コミュニティの拠点であること、災害時の避難所であることなど、地域にとって学校の果たす役割が大きいことから、その跡地については、地域の要望、特性、生活環境等に

配慮し、真に必要な施設として活用できるよう、住民ニーズの把握に努めながら検討を進める必要がある。